

▼地域の方と餅つきを楽しむ子どもたち



### 地域とつながる伝統行事 餅つき体験

12月4日に愛知川小学校で、1月9日には愛知川幼稚園で、地域の皆さんのご協力のもと、餅つき体験が行われました。

校園内では、朝からかまどの湯気が立ち上り、臼や杵を前にした子どもたちは興味津々の様子でした。

地域の方から「杵はこうやって振り上げるんだよ」「リズムが大事だよ」と声をかけてもらいながら、子どもたちは元気よく「よいしょ!」と声を合わせて餅をつきました。

つきあがった餅は、地域の皆さんが手際よく丸めて、砂糖醤油やきなこで味付けされました。できたての餅の香りがあたり一面に広がり、子どもたちはつきたての餅に笑顔を見せていました。

昔ながらの行事を体験し、地域との温かな交流を深める一日となりました。

▼龍笛に挑戦する児童（写真右）



### 伝統の音色にふれる 秦荘東小学校「雅楽講座」

12月11日、秦荘東小学校6年生を対象に、日本の伝統文化である雅楽の世界に触れる「雅楽講座」が行われました。

講師は蚊野雅楽会「千鳥会」の皆さんです。はじめに雅楽の歴史や、雅楽に由来する言葉について分かりやすく教えていただきました。その後、「越天楽」や「陪臚」、卒業を控えた6年生に向けて「揚げば尊し」が演奏され、厳かで美しい音色に児童たちは静かに聴き入っていました。

最後には、実際に児童も楽器に触れ、演奏に挑戦しました。

児童からは「雅楽は昔の人の楽しみだったんだなと思いました」と感想が聞かれ、日本の伝統文化を身近に感じる貴重な学びの時間となりました。

▼タブレットで会話をする児童（写真左）



### 画面越しに繋がる 秦荘西小学校オンライン交流会

12月11日・12日の2日間、秦荘西小学校5年生が沖縄県石垣市の真喜良小学校とオンラインによる発表交流会を行いました。

この交流会は、総合的な学習の時間の一環として、互いに地域のよさを調べ、発表し合うことを目的に実施されたものです。

児童たちは、石垣島の観光名所や食文化、海の美しさなどについて調べ、その成果を画面越しに伝えました。

交流会後には、「友達になれてうれしかった。仲良くなれたので、また交流会をやりたい」「滋賀の新たな魅力に気づいた」といった感想が聞かれました。

また、滋賀と沖縄の服装や気候の違いに驚く場面もあり、約1,500キロ離れた地域を身近に感じる、貴重な学びの時間となりました。

▼大会に出場した剣士たち



### 第43回滋賀県スポーツ少年団剣道交流大会

12月14日、第43回滋賀県スポーツ少年団剣道交流大会が東近江市総合運動公園布引体育館で行われました。

当日は県内各地から小学生および中学生の剣士が集まり、個人戦・団体戦で日頃の練習の成果を競い合いました。剣心会からは21名が出場し、気迫あふれる試合を繰り広げました。

#### 【結果】

団体戦 愛知川剣心会Aチーム ベスト8  
(安田一伸、堀内心菜、岩倉迅、武立栞奈、森拓登)  
個人戦 小学生5・6年女子の部  
準優勝 堀内 心菜さん

▼北川さんからカンナ掛けを教わる児童（写真左）



### 夢を語る 愛知川小学校6年生「夢授業」

12月5日、愛知川小学校6年生を対象に、キャリア教育「夢授業」が行われ、2人の講師から夢や仕事について学びました。

最初の講師は、いとし工務店の北川 吾志さんです。

授業では、釘打ちやカンナ掛けの実演が行われ、児童も実際に釘打ちやカンナ掛けに挑戦しました。北川さんは一人ひとり丁寧に指導され、児童からは「釘をまっすぐ打つのが難しい」「カンナを押す力加減が大変」と、ものづくりの奥深さを実感する声が聞かれました。

北川さんは、「夢を叶えるためには、まずあこがれを持ち、それに向かって行動することが大切です」と努力を積み重ねる大切さを伝えられました。

続いて登壇されたのは、元プロ野球選手の村西 哲幸さんです。

▼村西さんからアドバイスを受ける児童（写真右）



村西さんは、プロ野球選手としての経験や挫折を交えながら、目標を立てることの大切さ、夢を持ち続けることの意味、そして困ったときに支えてくれる仲間存在について、熱意を込めて語られました。

さらに、「自分のためだけでなく、誰かのために頑張ること大きな力が生まれます。感謝の心を大切にしてください」と、心に響くメッセージも届けられました。

授業の最後には、児童が自分の夢を発表し、村西さんから実現に向けた具体的なアドバイスをいただきました。

今回の「夢授業」は、自分の将来と真剣に向き合い、夢に向かって一歩踏み出すきっかけとなる、実りある学びの時間となりました。

▼講師の中野さん



### シリアから学ぶ命と日常の大切さ

12月17日、NPO 法人「Piece of Syria」創設者で、青年海外協力隊としてシリアで活動された中野 貴行さんの講演会が、愛知中学校で開催されました。

中野さんは、シリアに教育を届ける活動とともに、内戦後の現状を日本に伝えておられ、「世界が尊敬する日本人100人」にも選ばれています。

講演では「当たり前って、何だろう?」をテーマに、内戦により日常を失った人々の現実が語られました。

中野さんから「当たり前だと思っていることが、突然当たり前ではなくなることがあります。幸せは“なるもの”ではなく、“気づくもの”なんです」とメッセージをいただき、生徒一人ひとりが日常の尊さを考えるきっかけとなりました。

▼笑顔あふれる石部さん



### 100 歳到達おめでとうございます

石部 すへさん（石橋）が、1月27日に100歳の誕生日を迎えられました。

すへさんは、地域の体育委員に誘われてママさんバレーに親しみ、特にサーブを得意とされていました。

また、94歳まで野菜づくりなどの農作業に励み、長年にわたり体を動かしてこられました。裁縫も得意で、着物を仕立てたり、びん手まりを作ったりと手先の器用さも魅力です。

さらに、明るい性格で会話が弾み、現在は週4回デイサービスに通い「毎日が楽しい」と話されています。

ご家族も「元気で長生きしてほしい」と温かく見守っておられます。